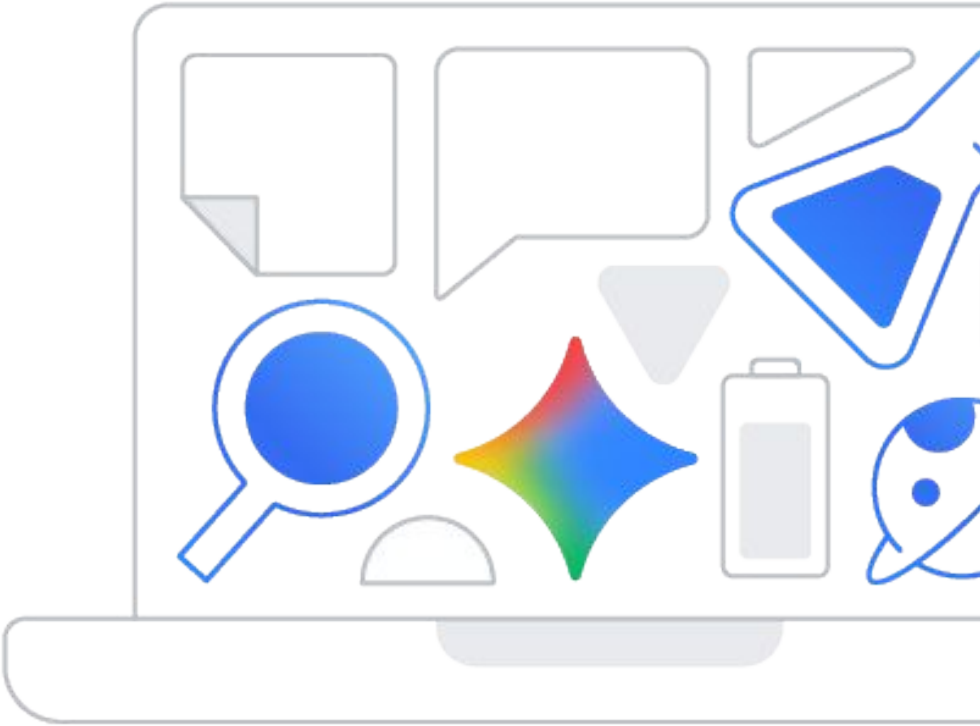
Gemini for Education

Gemini for Education

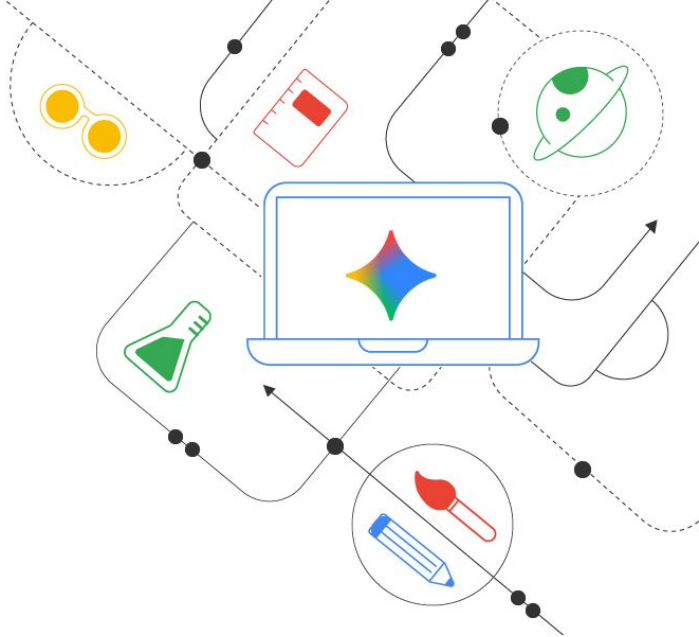
活用事例集



2026 年 10 月版

教育と学習の可能性を広げる

Gemini



あなたの生産性、創造性、好奇心を高める Google の生成 AI「**Gemini**」。
教育現場のために設計された Gemini が、 Google Workspace for Education の
コアサービスに加わり、これからの教育と学習の可能性を広げます。

なぜ、教育に生成 AI？

より教育活動そのものに専念できる

生成 AI による業務効率化と時間創出は、教員の働き方改革を推進します。初等中等から大学まで、生まれたゆとりを児童生徒や学生への個別指導、探究・研究指導といった、教育本来の対話に充てることができます。

個別最適な学びの新たな可能性を拓く

生成 AI が、学習者一人ひとりの関心領域や習熟度、学習ペースに応じた自律的な学びを支援し、専門性の深化と学習効果の最大化に寄与します。

AI 時代を生き抜くための能力を育む

生成 AI を思考のパートナーとして使いこなす力は、あらゆる学習者がこれからの社会で活躍するために不可欠です。教育現場での実践は、個に応じた学びから高度な探求まで、次世代のリテラシーと知の創出力を育みます。

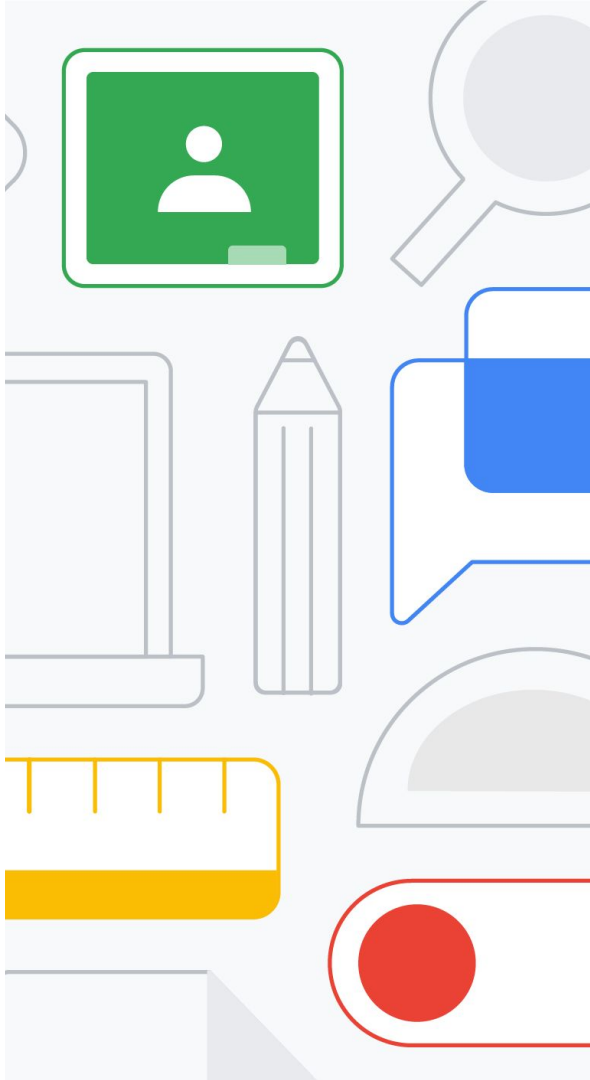
Gemini に関する
詳しい情報はこちら

教育者向け
Gemini アカデミー

Index

Gemini Case Studies

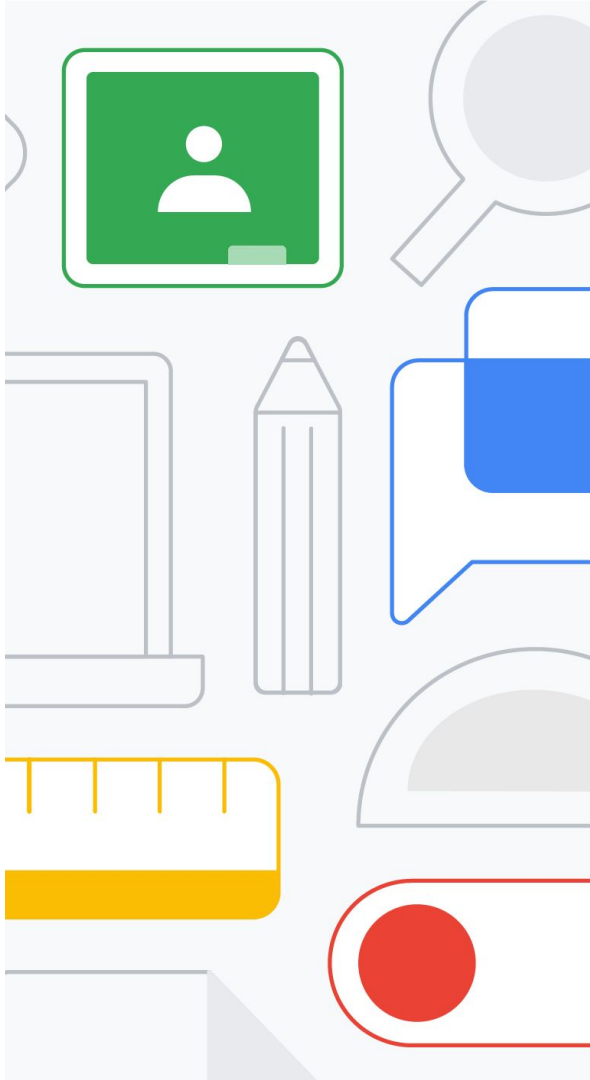
School		Title
札幌市立南の沢小学校	小学校	Gemini 活用で自分ごと化する保健学習と授業効率化
桐蔭学園小学校	小学校	フェイクニュースを作る体験で学ぶ、 AI 時代のリテラシー教育
福岡市立草ヶ江小学校	小学校	AI による校務自動選択で雑務削減し児童支援に注力
The Grange Institution	小学校（海外）	Gemini 活用で児童が自作ゲームをユーザー視点に改善
青森市立浦町中学校	中学校	学習停滞ゼロへ！個別最適なプログラミング授業を実現
埼玉県立熊谷農業高等学校	高等学校	AI 誤描の修正を通じて生徒の精読力と言語化力を育成
芝浦工業大學柏中学高等学校	高等学校	Gemini で成長可視化と指導自動化を実現
市立札幌みなみの杜高等支援学校	高等学校	Gemini API 連携による校務自律化と暗黙知の資産化
兵庫県立明石南高等学校	高等学校	Gemini 活用による学校 HP の内製開発
北海道札幌市教育委員会	教育委員会	300 校規模での安全な AI 導入と段階的活用
宮城県仙台市教育委員会	教育委員会	制限から活用へ！指針改訂と現場連携で安全な AI 利用
埼玉県久喜市教育委員会	教育委員会	生成 AI 活用で教員の残業削減と学びの深まりを両立
島根県松江市教育委員会	教育委員会	現場の声に応え生成 AI 利用規約を施行
福岡県久留米市教育委員会	教育委員会	生成 AI の活用で業務のスリム化に大きな期待



Index

Gemini Case Studies

School（五十音順）		Title
旭川市立大学	大学	Gemini 活用で教職課程の指導案が先進的な授業へ変化
鹿児島医療技術専門学校	大学	Gemini Notebook で講義資料を音声化し学習意欲向上
鎌倉女子大学	大学	Deep Research 活用で講義を対話の場へ
京都大学	大学	Gemini 活用で日常業務を約半減し研究・学習支援も推進
駒澤大学	大学	タスク工数を平均 65.5% 削減。無意識の AI 活用を推進
中央大学	大学	属人化した仕様書作成を AI で標準化し質を向上
東京工芸大学	大学	高校訪問の属人的な関係記憶を AI で構造化し継承
東京成徳大学	大学	Gemini と GAS で会議運営を自動化
東京大学	大学	主体的な学びと業務高度化を支える全学的な AI 活用
東北大学	大学	AI を人間の機能拡張と位置づけ学生の生産性が 10 倍に
東洋大学	大学	全学利用率 55% 超、草の根戦略で教職員の自己効力感を向上
日本大学	大学	全学 AI 導入で議事録作成を 2 時間から 30 分以内へ短縮
山形大学	大学	Gemini で生データを解析し剽窃リスクを構造的に回避
立教大学	大学	AI Pro 導入と実践的研修で、職員の「自分ゴト化」を促し 利用率 95.3% を実現
立命館大学	大学	AI との対話プロセス評価で英語発信力を高める



※この事例は 2026/06 時点の内容です

K12｜小学校　学習・授業

casestudy link （JA）

札幌市立南の沢小学校｜半田 尚嗣 氏

Gemini 活用で自分ごと化する保健学習と授業効率化

導入前の課題

暗記中心の授業と意見集約難による主体性不足

従来の保健では、教科書の事例を読むことが中心で「自分ごととして捉えられない学習」になりがちであった。経験を共有しても表面的な行為に目が向き、「なぜ健康に影響するのか」を科学的根拠に基づいて探究する姿勢に至らなかった。さらに、児童の多種多様な意見を瞬時に集約・分析して議論に直結させる手立てが不足し、単元の見通しをもたせられない教員主導の受動的な導入となり、主体的に参加する空気感を作れずにいた。

取り組み内容

生成 AI とフォーム連動による授業改善

Gemini for Education で教材研究を整理し、Gemini Notebook に読み込ませて導入動画やスライド案を生成。Google フォームで集めた約 60 件の児童の意見を Gemini で 4 カテゴリーに即時分類した。さらに専用の Gem を活用し、児童の回答から「6 パターンの架空の人物像」を生成。提示された人物のリスクや改善策を、Gemini がキュレーションした信頼できるサイトの情報に基づき探究させ、スライドにまとめてクラス全体で共有・対話できる環境を整えた。

導入後の変化

当事者意識と探究心の向上

自分の経験や家族の生活実態から生成されたキャラクターを対象にしたことで、従来の他人事という意識が払拭された。「なぜこれが健康に悪いのか」を児童が自発的に調べ、実感を伴った言葉で探究する姿が見られた。

科学的根拠に基づく思考

Gemini によるサイトキュレーションで質の高い情報に素早くアクセスできたため、「なんとなくダメ」ではなく「血管が〇〇になるから」といった医学的・科学的根拠に基づいた説明ができるようになった。

教材準備効率化と見取り

Gemini Notebook や Gemini の活用で教材準備に追われる時間が削減された。その分、授業中は机間指導や児童一人ひとりの思考プロセスを見守ることに注力でき、授業の質そのものが大きく向上した。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



導入のポイント

授業で Google フォーム を用いて児童の参加意識を高めることができた。さらに、その集計結果を Gem に読み込ませることで、授業の展開中に必要な資料ができるなど、教材研究を一新させる活用方法であった。児童が自分ごととして考えていくことが増え、探究学習の質を高めた。

※この事例は 2026/07 時点の内容です

K12｜小学校　課外活動や特別授業

casestudy link （JA）

桐蔭学園小学校｜松田 慧 氏

フェイクニュースを作る体験で学ぶ、AI 時代のリテラシー教育

導入前の課題

防御的なメディア リテラシー教育の限界

生成 AI の普及により、フェイク ニュースなどの「それらしい嘘」を作るコストがほぼゼロになった。見分け方を教えるという従来の防御的なメディア リテラシー教育では、常に手口の後手に回ってしまうという課題があった。すでに子どもたちがフェイクを作れる道具を手にしている以上、単に禁止したり遠ざけたりする対応は機能しない。実際に使わせながら、本質的な判断力や発信者としての責任を育てることが急務となっていた。

取り組み内容

あえてフェイクニュースを自作する授業を実践

5・6 年生の有志児童が参加する課外活動で、自分の端末で Gemini の画像生成機能を直接操作する授業を実施。児童はプロンプトを工夫して「人が信じてしまいそうなフェイクニュース」の見出しと証拠写真を作成。その後、作った画像を見せ合い、どれが本物かを当てるゲームをした。さらに、フェイクを見抜くために「対策レポート」として、作成時に工夫して考えた「どうすればフェイクを巧妙に隠せるか」のプロンプトをまとめさせた。作る側として得た知識と経験を、騙されないための守る力に変えることでフェイクの構造を内側から理解させる授業設計にした。

導入後の変化

作る側の体験で本質を理解

「見分けるだけでは万能ではない」ということを、作り手の体験を通じて自ら深く理解した。簡単に精巧なフェイクが作れる実感を伴うことで、情報に出会ったときに一度立ち止まり、情報源を確かめようとする姿勢が育っている。

発信者の責任を自分事に

「SNS で発信してもいいのか」というデジタル シティズンシップの議論が、自分が精巧なフェイクを作れてしまったという実感を伴って交わされた。発信者としての責任を、他人事ではなく当事者の問題として捉えている。

日常の情報への姿勢が変化

児童がまとめた対策レポートが、見抜く観点として機能し、回を追うごとに見抜く目が洗練された。画像だけでなく、文章や人から聞いた話に対しても情報源を確かめようとする姿勢が、日常的な振る舞いにも波及した。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です

活用イメージ

※ 画像は Gemini で作成したフェイクニュースです。



5・6 年生が Gemini の画像生成でフェイクニュースの証拠写真を作成。「バレない嘘を作る」ゲームを通してフェイクの精巧さを実感し、情報源の検証や安易に信じない姿勢を体験的に学んだ。

※この事例は 2026/07 時点の内容です

K12｜小学校　校務

casestudy link （JA）

福岡市立草ヶ江小学校｜西畑 英彦 氏

AI による校務自動選択で雑務削減し児童支援に注力

導入前の課題

多様な教頭業務の負担増加と品質確保の難しさ

教頭業務には保護者向け文書、職員向け依頼文、行事掲示物、Google フォームの作成、会議資料の要約など多種多様な雑務が存在し、一つひとつの作成に時間がかかっていた。また、これらは単なる作業ではなく、学校現場にふさわしい言葉遣いや保護者・児童への配慮など高度な判断が求められる。従来の生成 AI 活用では毎回詳細なプロンプトを作成する負担が大きく、そのまま学校業務で使える品質を短時間で担保することが困難であった。

取り組み内容

コンシェルジュ AI で 12 スキルを自動選択

Gemini のカスタム指示を活用した「コンシェルジュ AI」を構築。Gemini Notebook に 12 種類の業務ルールをスキルとして登録し、依頼内容に応じて適切なスキルを自動選択・結合する仕組みを整えた。ユーザーはプロンプトの型やスキル名を意識せず、自然な言葉で依頼するだけで目的に沿った出力が得られる。該当スキルがない場合は「未実装」と回答させるルールを設け、安全性を確保。Google Workspace for Education 環境内で誰でも再現可能な運用を実現した。

導入後の変化

多岐にわたる校務作成時間の大幅な短縮

保護者向け文書や職員向け連絡文、Google フォームの設問案作成などの時間が大幅に短縮された。画像生成を交えた掲示物作成、図工や理科の安全指導チェックリスト出力、通知表所見のたたき台作成など多岐にわたる場面で活用が定着。一からプロンプトを考案する負担がなくなり、概要を伝えるだけで学校現場の基準に沿った使いやすい資料を速やかに作成できるようになった。

教員が担うべき指導や支援への集中

日常的に発生する細かな雑務を AI に任せることで、教頭や教職員が一人で抱え込みがちだった作業負担が減った。その結果生まれた時間を、若年教員の育成、児童への直接的な指導や支援、保護者対応の質の向上、学校全体の業務改善へと充てられるようになった。単なる時短にとどまらず、最終判断や配慮など人間だからこそできる本質的な校務に専念する環境が整った。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



学校型ループエンジニアリング　制御盤

このブックは、Gemの中にSkillを抱え込むのではなく、AIが仕事を選び、進め、戻るためのSkill Registryとして使います。

指標	値
Active Skill数	17
Human checkが必須	0
Critical Check数	3
登録Agent数	10
Route数	10

5層構造	Human	Router	Skill Registry	Knowledge Base	Evaluation
役割	教師・管理職	Gem	Google Sheets	NotebookLM / Drive	QA / 安全確認
問い	許可できるか	何を使うか	次に何をするか	根拠は何か	戻すか完了か
更新者	人間	Gem設定	人間が表を更新	人間が資料更新	Router + Human
要点	最終責任	統括	制御盤	知識庫	ループ
完了条件	承認	使用Skill明示	Status反映	根拠参照	PASS

運用原則

1. NotebookLMは知識を読む仕組み。Spreadsheetは処理を管理する仕組み。
2. Routerは、Skill Registryを見てSkillを選び、成果物を評価し、NGなら元Skillへ戻す。
3. 個人情報、安全、いじめ、緊急連絡、通知表所見はHumanCheckを必須にする。
4. 新しいSkillは02_Skillsに1行追加し、03_Routesと04_Checksに必要な分岐を足す。
5. Gemのカスタム指示は短く保ち、詳細ルールはKnowledgeとSheetsへ逃がす。

活用イメージ

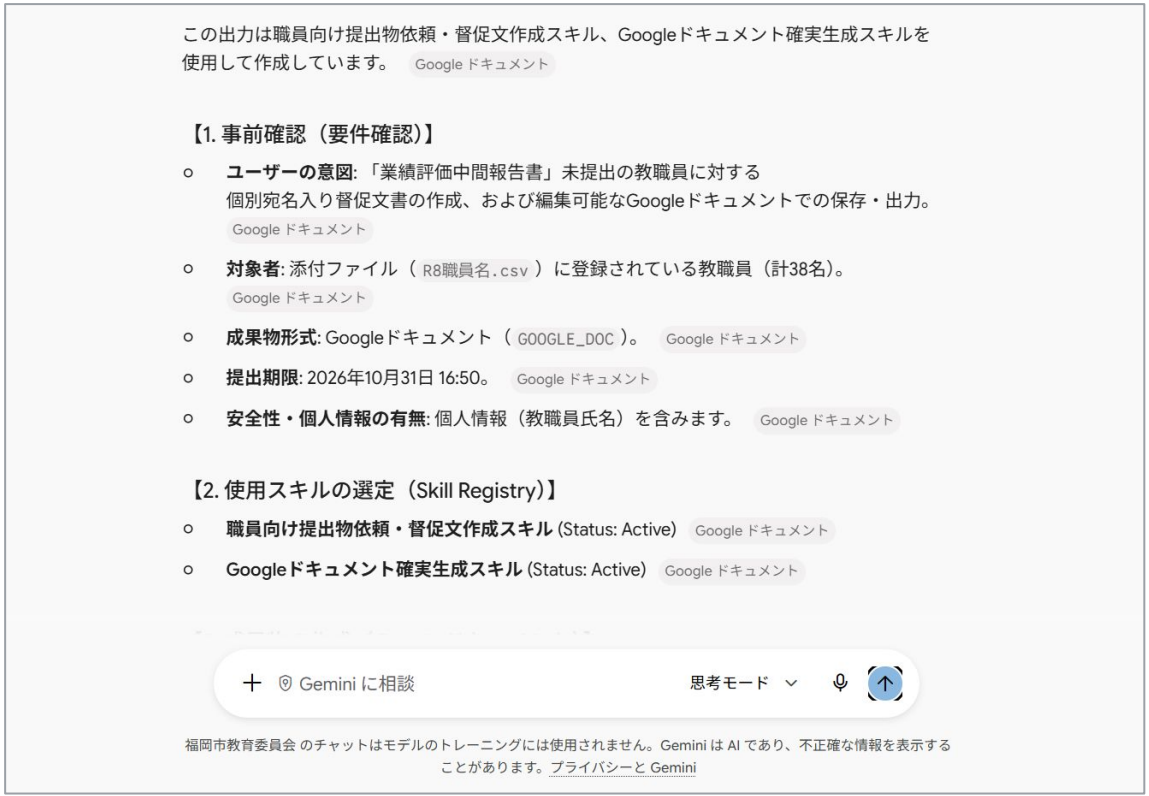
プロンプトの型を意識せず自然な言葉で依頼するだけで、AI が適切なスキルを自動判定する設計を構築。Google Workspace for Education 上で誰でも再現・修正が可能な仕組みとした。

福岡市立草ヶ江小学校｜西畑 英彦 氏

※この事例は 2026/07 時点の内容です

K12｜小学校　校務

casestudy link （JA）





Google スプレッドシート を制御基盤として、17 ものスキルを作成。校務で様々なツールを組み合わせ、学校現場で使い続けられる環境を構築。Gem を活用して、「学校型ループ業務支援システム」によって校内の定常業務から、イレギュラーな事案までさらに迅速な対応をするべく、取り組んでいる。

※この事例は 2026/07 時点の内容です

K12｜インターナショナルスクール　課外活動や特別授業

casestudy link （JA）

The Grange Institution｜片野 祐斗 氏

Gemini 活用で児童が自作ゲームをユーザー視点に改善

導入前の課題

受動的な ICT 利用からの脱却

児童が日常的にデジタルに触れる一方、学校での ICT 活用は検索や既存アプリの利用にとどまっていた。児童を単なるコンテンツの消費者ではなく、ゲーム制作を通して創造性や論理的思考力を備えた創作者へ育てたいと考えた。また、生成 AI を「答えを出す道具」ではなく、アイデアを整理・改善する学習パートナーとして活用し、ユーザー視点でのものづくりを経験させたいという課題意識があった。

取り組み内容

Gem と Canvas でゲーム企画改善

教員が要件定義を促す専用 Gem を作成し、Google Classroom で共有。児童は Chromebook で Gem と対話しながらルールや楽しさを言語化した。その後、Gemini の Canvas 機能を活用してゲームを制作し、コードを調整した。完成作は Google サイト で公開し、Google フォーム で互いにフィードバックを収集して改良を重ねた。2 人用ゲームを 3〜4 人対応へ拡張する等の改善サイクルを回した。

導入後の変化

ユーザー視点の獲得と改善

自己満足にとどまらず、遊ぶ人の立場に立って分かりやすさや難易度を考える姿勢が身についた。Google フォーム で集めた友達の意見をもとに、2 人用ゲームを 3〜4 人対応へ発展させるなど、客観的なフィードバックを反映して作品を磨き上げる一連のプロセスを経験できた。

技術的障壁の解消と創作集中

Gemini がコード生成やエラー修正を支援したことで、プログラミングが得意でない児童も創作に参加しやすくなった。技術的な壁に悩まされることなく、「どのような体験を作りたいか」「どう工夫すれば面白くなるか」といった本質的な思考やアイデア出しに集中できる環境が整った。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



活用イメージ

専用 Gem との対話でゲームを企画し、Canvas で制作。成果物を Google サイト で共有し Google フォーム の意見から多人数プレイ対応へ改修した。

※この事例は 2026/06 時点の内容です

K12｜中学校　学習・授業

casestudy link （JA）

青森市立浦町中学校｜本間 史祥 氏

学習停滞ゼロへ！個別最適なプログラミング授業を実現

導入前の課題

個別支援の限界と生徒の思考停滞

中学校技術分野の「技術による課題解決」では、問題の把握から課題設定、設計へと進む場面でつまずく生徒が多い。豊かな生活環境で過ごす生徒にとって身近な技術の課題を見出すことは容易ではなく、具体的な解決アイデアの考案にも難航していた。従来はワークシートの添削や個別の対応で支援していたが、教員 1 人に対して生徒 30 人（学年 140 人）という体制では十分な個別指導が行き届かず、思考や作業が止まってしまう生徒へのアプローチが大きな課題となっていた。

取り組み内容

AI 先生の構築と教育的配慮の組み込み

指導計画やワークシート、評価基準を学習させた Gem「AI 本間先生」を作成し、Google Classroom で共有した。プロンプトには安易に答えを教えずヒントに留める制約条件や総務省の関連情報、教員としての役割を定義し、教育的配慮を徹底した。生徒がチャットアプリの課題設定や処理フローを考える際、AI と対話しながら思考を深められる環境を構築。約 140 名中 120 名が課題設定から設計のフェーズで本ツールを主体的に活用した。

導入後の変化

作業停止の生徒がゼロに

Gem の伴走により、従来発生していた作業が止まる生徒がゼロになった。つまずきによる学習の停滞が解消され、生徒が自力で課題設定から設計まで進められる学習環境が整った。

批判的思考力の育成へ昇華

アンケートでは 80% が学習に役立ったと回答した。回答の誤りを指摘する意見に対しても AI の仕組みを解説し、ハルシネーションの理解や自ら検証を繰り返す批判的思考力の育成へとつなげた。

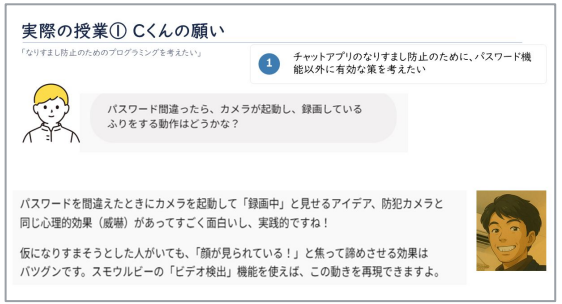
個別最適な学びの実現

教員 1 人では難しかった細やかな個別支援を実現した。インクルーシブ教育の強力なツールとなる可能性を示し、教員不足という社会的課題に対する新たな解決策を提示した。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



活用イメージ

指導計画等を読み込ませた「AI 本間先生」を作成。生徒が課題設定やプログラミングの処理手順を設計する際、安易に答えを出さずヒントを与える対話型アプローチにより、生徒の主体的な学びを支援した。

※この事例は 2026/06 時点の内容です

K12｜中学校　学習・授業

casestudy link （JA）

青森市立浦町中学校｜本間 史祥 氏



1 対 140 の個別支援の壁を乗り越えるための Gemini 活用の全体図。教育的配慮を施した Gem が副担任として伴走し、学習停滞ゼロや AI リテラシー獲得へと導くプロセスをまとめています。

※この事例は 2026/07 時点の内容です

K12｜高校　学習・授業

casestudy link （JA）

埼玉県立熊谷農業高等学校｜針岡 萌 氏

AI 誤描の修正を通じて生徒の精読力と言語化力を育成

導入前の課題

生徒の豊かな感性を文章化・言語化できない課題

同校の生徒は農業実習で豊かな感性を育んでいる一方で、内面の気づきを論理的な文章に落とし込む言語化に課題を抱えていた。また、言葉を文字通り受け取り相手の真意を誤解する傾向があり、社会で生きていくための対人リテラシー向上も求められていた。今までの「読む」「書く」を中心とした国語教育を超え、小説の「行間」を根拠を持って想像する訓練を通じ、生徒の長所を引き出してメタ認知能力や論理的思考力を高める授業設計が急務となっていた。

取り組み内容

AI 画像修正活動を中心とした学習プロセスの構築

Gemini Notebook や Google AI Studio を活用して授業を設計。学校マスコットをモデルにしたカスタム Gem「うしまる」の開発に加え、合言葉を入力するまで画像生成を制限する「画像生成の物理的ロック」を実装した。授業では生徒が Gem と対話して情景画像を生成させ、AI の誤描（ハルシネーション）に対し教科書のページ・行数を根拠に論理的に訂正（デバッグ）する活動を導入。さらに、作成した画像を Google スライドで共有し、根拠を指し示して議論する「違和感会議」を実施した。

導入後の変化

精読姿勢の定着と論理的言語化力の向上

AI の誤描を修正するために教科書という「物証」へ立ち戻る動機が生まれ、生徒の 86.1% が「AI の違和感を正すために教科書を何度も読み直した」と回答した。最多で 26 箇所の本文引用を記述して AI の誤描を論理的に指摘する生徒が現れるなど、従来の指導では困難だった細部へのこだわりや主体的な言語化が促進された。

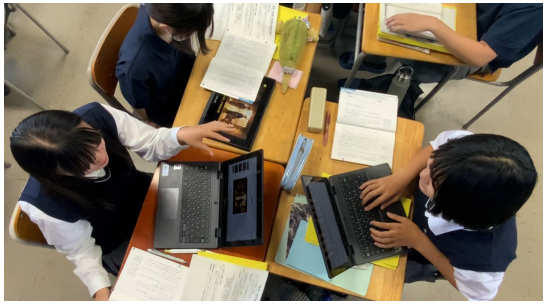
批判的思考の育成と対話ログ分析の活用

答えを直接提示しない設計により、約 42% の生徒が振り返りで批判的思考を次の成長目標に掲げ、AI を鵜呑みにせず制御する主体性を獲得した。また、Gemini Notebook を用いて全生徒の対話ログ約 10 万字を一括分析し、評価ルーブリックに基づく個別アドバイスの即時返却や、クラス全体のつまずきを可視化して指導改善へ繋げる還流サイクルを確立した。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



活用イメージ

生徒が Gem と対話し物語の場面を画像化。AI の誤描に対し教科書のページ数を根拠にデバッグし、画像を共有して議論する「違和感会議」を通して多角的な理解を深める。

※この事例は 2026/07 時点の内容です

K12｜高校　学習・授業 / 校務

casestudy link （JA）

芝浦工業大學柏中学高等学校｜荒牧 孝一郎 氏

Gemini で成長可視化と指導自動化を実現

導入前の課題

非認知能力評価と個別指導の負担

世界史の授業において、批判的思考力や挑戦心といった生徒のマインドセット（非認知能力）の変容を促す取り組みを目指していた。しかし、これらはペーパーテストで測ることが困難で、成長がブラックボックス化しやすい課題があった。また、生徒一人ひとりの変化に応じた個別フィードバックを手作業で作成・返却するには膨大な時間と労力がかかり、継続的な実施が困難だった。さらに、自己評価が低い生徒や失敗を恐れる生徒に対し、前向きな行動変容を促す仕組みの構築も求められていた。

取り組み内容

Gemini 連携による自動化システムの構築

Google Workspace for Education を基盤とし、 Gemini を開発パートナーとして活用した「マインドセット成長可視化システム」を構築した。 Gemini Notebook を参考に指標や設問を策定し、 Gemini との対話で過去データ比較やレーダーチャート生成を行なう GAS コードを生成した。 フォーム回答をトリガーに、スコア変動に応じた個別メッセージや成長チャートを含む HTML メールが数十秒で自動送信される仕組みを確立した。

導入後の変化

非認知能力の可視化と理解

従来測りにくかった批判的思考力や挑戦心などの成長が数値とチャートで可視化された。生徒は自分宛ての詳細なレポートを真剣に確認し、教員もポテンシャルを把握して自信を持って指導できる環境が整った。

主体的な発言と協働の定着

成長が承認され前向きな評価を得ることで、発表時に自ら質問を投げる生徒が増加した。他者の意見を尊重する姿勢も定着し、世界史の探究を通して生徒同士が自然と学び合う心理的安全性の高いクラス風土が醸成された。

自動化による指導負担軽減

集計やレポート作成が自動化され、教員はデータ集計の手間から解放された。業務負担を増加させることなく、可視化されたデータを元に授業中での生徒の具体的な行動変容を見守る伴走支援に注力可能となった。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です

システムフロー



分析・改善の活用例

Gemini Notebook に地歴の学習指導要領、文科省の EntreComp、世界史探究の関連情報を学習させ、生徒が記入した回答から 6 つの資質能力（批判的思考力・ビジョン・自己効力感・協働・挑戦心・レジリエンス）を測れるようにシステムを構築した。

※この事例は 2026/07 時点の内容です

K12｜高校　学習・授業 / 校務

casestudy link （JA）

芝浦工業大學柏中学高等学校｜荒牧 孝一郎 氏

マインドセット成長レポート

山田 太郎 さん

1回目の診断への回答ありがとうございます。今後の成長の記録として保管しておいてください。



現在のマインドセット分析（1回目）

以下の強みと伸びしろを意識して、今後の授業に臨んでみましょう。

あなたの最大の強み：協働

多様な意見を尊重し、チームで協力する姿勢が素晴らしいです。歴史を動かしてきた「集団の力」を体現していますね。

さらなる伸びしろ：ビジョン

一つの物事に集中して取り組める強みがあります。今後は、他の分野や現代のニュースとも結びつけて考える練習をしてみましょう。

マインドセット成長レポート

山田 太郎 さん

2回目の診断ですね！継続的な振り返りは成長への近道です。



前回(1回目)からの変化

前回 (1回目)	今回 (2回目)	
3.00	3.67	▲ +0.67 pt

チャートの「点線」が前回、「太線」が今回の結果です。どの部分の形が変わったか確認してみましょう。

今回一番成長した力：挑戦心 (+2.0pt)

未知のことへ飛び込む「一歩」の勇気が、劇的に強くなりましたね！失敗を「データ収集」と捉える起業家のマインドセットが、歴史の学びを通して芽生えています。

生徒自身の「マインドセット（心のあり方・思考の癖）」の変容を促したいと考えたのをきっかけに作成。生徒に「自分だけの成長レポート」をリアルタイムで届けることが可能になった。
システムによって「批判的思考力」や「挑戦心」が承認され、前向きなフィードバックを与えられたことで、実際の授業内の行動にも変化が現れた。

※この事例は 2026/07 時点の内容です

K12｜高等支援学校　学習・授業 / 校務

casestudy link （JA）

市立札幌みなみの杜高等支援学校｜岡田 尚大 氏

Gemini API 連携による校務自律化と暗黙知の資産化

導入前の課題

専門知の属人化と手動入力の負担による業務逼迫

特別支援教育の専門性やユニバーサル デザインの視点など、教員が持つ「暗黙知」が個人のドキュメント内に留まり、リアルタイムに共有されない課題があった。従来の事例検討等のアナログな手法では日常業務に即応できず、個別教育計画や所見作成における手動入力の負担も大であった。さらに、難解な専門用語で書かれた公文書は、他の教員が日常の授業に応用する際の障壁となっていた。

取り組み内容

Gemini API 連携による校務支援システム構築

プログラミング未経験の教員が、Gemini との対話を重ねて約 6 時間で実用システムを構築。Google ドキュメントに書いた日々の自由記録を、Gemini が自動で判別・整理してスプレッドシートへ一元蓄積する仕組みを整備した。
さらに、蓄積データや専門知識を活用した「校内 AI メンター」を開発。専門的な知見を現場で使いやすい言葉に変換して参照できるようにし、教員の業務効率化と知見共有の両立を実現した。

導入後の変化

1 クリックで全自動構造化

Google ドキュメントに自由記述し 1 クリックするだけで、Gemini が自動仕分けしデータベースへ格納。データ整形作業が不要となり、教員が児童生徒に向き合う時間を大幅に創出した。

24 時間活用できる専門知

事例ログを自動でベクトル化し、チャット形式で検索可能にした。経験の浅い教員でも悩みを打ち込むだけで自校の過去事例から最適な手立てを即座に引き出せ、一人で抱え込む状況を解消した。

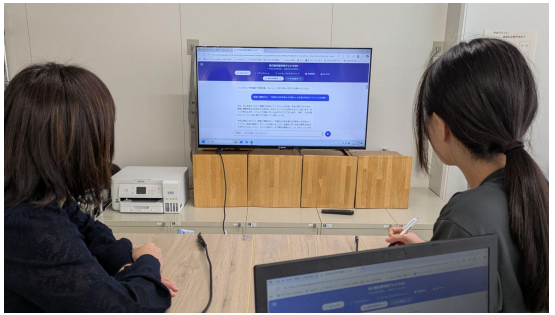
専門知識の翻訳と組織進化

難解な専門用語をわかりやすい共通言語へ完全翻訳して出力。授業への波及を容易にした。また、相談履歴の自動蓄積により校内ニーズが可視化され、学校組織の自律的な進化が始まった。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



導入のポイント

プログラミング未経験の教員でも、Gemini と対話しながら試作を重ねることで、わずか 6 時間程度で GAS と連携した複雑な構造化・ RAG システムの骨格を構築できた。

※この事例は 2026/07 時点の内容です

K12｜高校　校務

casestudy link （JA）

兵庫県立明石南高等学校｜森 信頼 氏

Gemini 活用による学校 HP の内製開発

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です

導入前の課題

複雑なサイト構造と外部委託・運用の課題

従来の学校サイトは情報構造が複雑でスマホ閲覧にも十分対応できず、受検生や保護者が目的に応じた情報にたどり着きにくい状況であった。また更新作業においてページごとの構成やレイアウトが統一されておらず、担当者の編集負担が大きい点も課題であった。外部業者への委託は費用や調整時間を要し、CMS 導入も学校独自の表現や細かなデザイン調整との両立が困難であったため、教員主体で柔軟かつ低コストに更新・管理できる情報発信基盤の構築が求められていた。

取り組み内容

Gemini を共同開発者とした HP 完全内製化

教員自らが Gemini を共同開発者として活用し、学校サイトの全面改修を実施した。Gemini との対話で全ページの課題整理や情報ニーズの分析を行い、サイトマップや階層構造をゼロベースで再設計した。CMS に依存しない静的 HTML を選択し、共通パーツや共通 CSS / JavaScript を導入して保守性を向上。開発中も HTML・CSS・JavaScript の実装、レスポンシブ デザイン調整、デバッグにおいて Gemini から修正方針や競合解消案の提示を受け、高速な内製開発と継続的改善の基盤を整備した。

導入後の変化

体系的なサイト構築と高い保守性の実現

情報構造を見直し、学校紹介や進路情報などを体系的に整理したホームページを構築した。共通パーツやファイル管理方法を整理したことで、ページ追加や修正を効率的に行えるようになり、担当者の変更にも強い高い保守性を実現した。公開後も新規ページの追加やデザイン見直しを継続的に行えている。

教員主体による開発・運用体制の確立

Gemini を活用することで、専門業者や CMS に依存せず、教員自身が企画、情報設計、デザイン、開発、改善までを一貫して行える運用体制を構築した。学校からの要望や教育活動の変化に応じて柔軟かつ継続的にサイトを改善できる環境が整い、主体的な学校広報の仕組みを実証した。

活用者の声

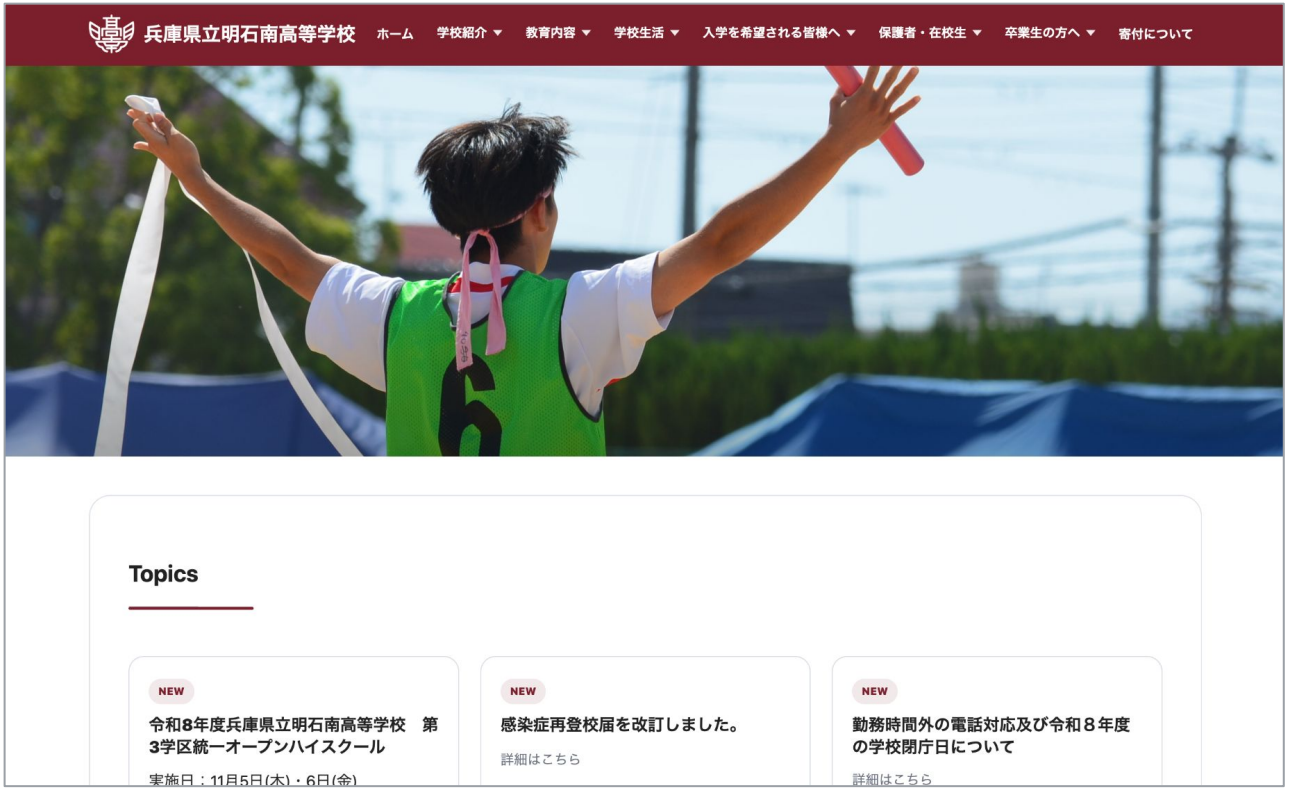
「Gemini for Education は単なる文章作成やコード生成のツールではなく、学校現場の課題を一緒に考え、改善していくパートナーになり得ると感じました。今後も…成果やノウハウを校内外で共有していきたいと考えています。」

兵庫県立明石南高等学校｜森 信頼 氏

※この事例は 2026/07 時点の内容です

K12｜高校　校務

casestudy link （JA）



サイトマップや階層構造など、Web サイトをゼロベースで再設計。CMS に依存しない静的 HTML を選択し、共通パーツや共通 CSS / JavaScript を導入した保守性の向上や、HTML・CSS・JavaScript の実装、レスポンシブ デザイン調整、デバッグにおいて Gemini から修正方針や競合解消案の提示を受け、実装の内製化を実現した。

※この事例は 2026/05 時点の内容です

K12｜教育委員会　学習・授業 / 校務

北海道札幌市教育委員会

300 校規模での安全な AI 導入と段階的活用

導入前の課題

大規模自治体における安全な AI 運用の模索

札幌市は市内 314 校、児童生徒約 14 万人、教職員約 1 万人を抱える大規模自治体である。Google for Education において Gemini がコアサービス化され対象年齢が引き下げられたことで、学校現場での生成 AI 活用が前提となる中、児童生徒や教職員が安全かつ効果的に活用するための体制整備が急務となった。特にハルシネーションやバイアス、個人情報保護といったセキュリティ上のリスクに対応しつつ、教職員のスキル差に応じた適切な利用ルールや学習プロセスの構築が求められていた。

取り組み内容

ガイドライン策定と段階的利用フローの構築

国のガイドラインや市のセキュリティポリシーに準拠し、「生成 AI 利活用ポリシー」や運用基準、利用フローを整備した。教員は原則利用可能とする一方、児童生徒の利用は事前学習と保護者説明を経た学校からの申請制とし、段階的に機能をオンにする仕組みを導入した。申請を容易にするため 1 枚もののフロー図を作成したほか、全教員向けにリスクや運用ルールを解説する 5 分間の研修動画を必須化し、組織的なリテラシー向上を図った。

導入後の変化

壁打ち相手として活用し業務選択肢が拡張

情報発信やアイデア出しの壁打ち相手として Gemini を日常的に活用するようになった。事前の問い合わせにより、業務の検討手順やアイデアの引き出しといった選択肢が大幅に広がり、担当者個人の業務遂行能力や対応力が向上した。

簡潔な申請フローで 60 校へ利用拡大

事前指導や保護者説明の枠組みを整理し、手続きを 1 枚もののフロー図として可視化した。複雑な手続きを廃止したことで、市内約 300 校のうち 50 ～ 60 校でスムーズに申請が行われ、現場に過度な負担をかけずに安全かつ段階的な児童生徒の利用開始が実現している。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です

導入のポイント

ポリシー策定に加え、教員向け必須動画研修や児童生徒向け「Gemini パスポート」による事前学習をセットで整備した。大規模組織でも教員のスキル差に依存せず、安全かつ段階的に利用を拡大できる仕組みを確立した。

※この事例は 2026/05 時点の内容です

K12 | 教育委員会　学習・授業 / 校務

宮城県仙台市教育委員会

制限から活用へ！指針改訂と現場連携で安全な AI 利用

導入前の課題

リスク回避優先による活用範囲の限定化

2023 年に「仙台版 生成 AI 利活用ガイドライン Ver.1」をいち早く策定したものの、リスク回避を優先したため活用の範囲が狭く使いづらいという課題が生じた。一方で、学習支援アプリやブラウザへ AI 機能が標準搭載され始め、学校現場からは活用方法やルールに関する問い合わせが急増した。「使わせない」のではなく「安全に使いこなす」ための具体的で実効性のある指針と環境整備が急務となった。

取り組み内容

ガイドライン改訂と双方向パイプの構築

国のガイドライン改訂を機に「Ver.2」へ改訂。要配慮個人情報の入力不可といったセキュリティポリシーを整理しつつ、学校現場の情報管理委員会による審査と校長許可による迅速な運用フローを構築した。さらに校長・推進担当者・全教職員を対象とした階層別研修を実施し、校務支援システム等を活用して教育委員会と学校間の双方向リアルタイム情報共有体制を確立した。

導入後の変化

校務効率化による対話時間の創出

所見案や教材作成のたたき台作成に Gemini 等の生成 AI を活用することで、事務作業時間を短縮した。また、児童生徒の振り返りデータ分析により「つまずき」を可視化し、翌日の授業改善へ繋げた。これにより教員の心理的ハードルが低下し、生まれたゆとりの時間で子ども一人ひとりと丁寧に向き合い対話する指導を実現した。

対話を通じた思考の深化と主体性育成

小学校では校外学習計画で AI から新たな視点のアドバイスを得るなど探究学習を深化させ、中学校では英語の対話を重ねてスピーキング試行回数を飛躍的に増加させた。AI の回答を鵜呑みにせず自ら判断・修正する能力や情報モラルを育むことで、AI を「学びを支えるパートナー」として主体的に使いこなす姿が見られた。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です

活用イメージ

校務では所見案や小テストのたたき台作成、振り返り分析による「つまずき」可視化に活用し子どもと向き合う時間を創出。授業では校外学習の計画作成における新たな視点の獲得や、英語のスピーキング練習などで幅広く活用。

※この事例は 2025/11 時点の内容です

K12｜教育委員会　学習・授業 / 校務

埼玉県久喜市教育委員会

生成 AI 活用で教員の残業削減と学びの深まりを両立

導入前の課題

教員の業務逼迫と探究的な学びの深化が課題

久喜市（人口約 15 万人、小中学校 30 校）では、教員の平日における月 45 時間以上の時間外勤務割合が高く、業務の効率化が急務であった。また、児童生徒の主体的な学びを引き出す探究型授業への転換や、学力・学習意欲の向上を図る取り組みも求められていた。しかし、従来の指導スタイルやリソース不足の中では、個別最適な学びや十分なフィードバックの提供、教員の校務負担軽減を同時に実現することが困難な状況にあった。

取り組み内容

ガイドライン策定と段階的 AI 活用を推進

市教育委員会が教育データおよび生成 AI 利活用ガイドラインを策定し、全教職員研修を通して利用ルールを徹底した。その上で、久喜北小学校の「生成 AI 活用ロードマップ」に基づくマインドセット形成や対話スキルの育成、Gemini、Gem、Gemini Notebook、Canvas の段階的活用を展開した。久喜小学校での Gemini を用いた歴史人物との対話授業や AI 振り返りシートの活用、栗橋小学校での Gemini Notebook を活用した通知表作成フローの構築等、授業と校務の双方で AI 活用を推進した。

導入後の変化

残業時間の大幅削減と校務 DX 全国 1 位

平日月 45 時間以上の時間外勤務割合が大幅に減少した。Gemini Notebook による通知表作成補助等でゼロからの作成負担を減らし、教員が客観的事実に基づいた評価を効率的に行える環境を構築した。令和 7 年度の校務 DX チェックリストでは学校設置者向けで全国 1 位、学校向けで全国 10 位を獲得した。

学力・汎用的能力向上と主体的学びの深化

学力調査において国語・算数 / 数学・英語の全教科で学力を伸ばした児童生徒の割合が増加した。思考表現力や問題解決能力等の汎用的能力も向上した。Gemini や Gem との対話や即時フィードバックを通じ、児童が自分の考えに自信を持ち根拠を持って伝えられるようになる等、主体的な探究学習が定着した。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



活用イメージ

教育データおよび生成 AI の利活用ガイドラインを策定し、動画や確認テストを組み合わせた全教職員研修を実施した。利用ルールを徹底した上で、各校が主体的に授業や校務へ展開できる体制を構築した。

※この事例は 2026/05 時点の内容です

K12｜教育委員会　学習・授業 / 校務

島根県松江市教育委員会

現場の声に応え生成 AI 利用規約を施行

導入前の課題

禁止措置による生成 AI 活用の遅れ

令和 5 年度の文部科学省暫定ガイドラインが出された当初、松江市教育委員会は校務用 PC での使用を禁止し、学習用は申請制とするなど慎重な姿勢でスタートした。その後、ガイドライン改定や端末の Chromebook への更新を機に、生成 AI を活用する方向へ舵を切った。一方で利用環境を整えるためには文部科学省のガイドラインをそのまま適用するのではなく、市独自の制限を設ける必要があった。新たな取り組みでもあり、庁内と学校現場への説明、合意形成、説得の負担が見込まれた。

取り組み内容

現場と教育委員の声で規約を迅速制定

現場の教職員から「早く使いたい」という要望があり、教育委員からも働き方改革の指摘を受け、令和 7 年度より市独自の規約策定に着手した。文部科学省のガイドラインに準拠しつつ、個人情報入力の制限などを盛り込んだ「松江市教育委員会生成 AI 利用規約」を令和 8 年 3 月に正式施行した。現場と教育委員の後押しもあり、合意形成は円滑に進んだ。各校の管理職や担当教員への丁寧な説明を開始した。さらに、Google for Education の研修サービスを活用した階層別研修ロードマップも案として作成し、活用拡大に向けて計画中。

導入後の変化

意欲的な教員が自主的に活用

導入前に寄せられていた「早く使いたい」という教育委員会への問い合わせが落ち着くなど、現場での利用がスムーズに浸透している。AI を利用することへの否定的な意見はほとんどなく、各校からは、活用をどう進めるかという次の相談が寄せられている。夏休みには、活用の様子を聞き取るなど、次のステップに向けた準備が予定されている。

現場教員の自主活用と研修需要が急増

活用できる環境が整ったことで、各学校における生成 AI への関心が大きく高まっている。全校を対象とした夏の訪問研修において、「生成 AI の活用について実施してほしい」という要望が多数寄せられるなど、現場の意識改革が進んでいる。研修では、まず校務での活用による働き方改革を進め、生まれた時間を児童生徒と向き合う時間に充てることを目標とする。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



導入のポイント

管理職から担当教員へと段階的に規約を直接説明。さらに、教職員の意欲や役割（管理職・先進層・一般層）および目的（学習・校務）に応じた研修ロードマップを策定し、円滑な定着を図っている。

※この事例は 2025/11 時点の内容です

K12｜教育委員会　学習・授業 / 校務

福岡県久留米市教育委員会

生成 AI の活用で業務のスリム化に大きな期待

導入前の課題

教員の膨大な業務

久留米市では、欠席連絡や各種アンケートなどデジタル化できる業務を増やすことで、教員の業務をできるだけスリム化し、子どもと向き合う時間を少しでも確保しようと努めてきた。そうした中、近年の生成 AI の急速な進化は、社会インフラの一部となりつつあり、教員の業務の更なるスリム化を実現する可能性がある。そこで、教員自身が生成 AI に慣れ親しみ、その利便性や懸念点を含めた賢い生成 AI との付き合い方について知っておくことが必須となった。

取り組み内容

安全な環境整備と寄り添い支援の全校展開

教員が安全に活用できる Gemini や Gemini Notebook を中心に、教育委員会が活用法を積極的に紹介。授業で使う教材はもちろん、資料や文書のたたき台としての活用は、多くの教員に広まりつつある。その活用の普及のため、指導主事が学校に出向き、各校の状況に応じて校内研修を実施。「生成 AI について今さら聞けない」と不安な教員向けの研修を充実させ、多くの教員が校務のスリム化に生成 AI を活用できるように努めている。今後も、授業記録や議事録、提案資料の自動作成など、日進月歩で進化する生成 AI と共に 更なる業務のスリム化を目指して模索していく。

導入後の変化

多くの教員が活用

全教員に行ったアンケートでは、生成 AI を業務で活用した教員は、令和 6 年度の 33 %から令和 7 年度は 95%と活用率が大幅に向上する結果となった。特に、お便りや各種資料などの文書作成時における「たたき台」「添削役」としての活用や児童の実態に応じた教材作成に多くの教員が活用しており、業務のスリム化を実感している。

生成 AI を活用した学習の試行

国語科の作文単元において、「題材を決める相談相手」「語彙を補うアシスタント」としての活用や、算数（数学）科で、「説明を文章化する際のアドバイザー」としての活用について、試行実践を積み上げている。また、特別支援学級において、子どもの特性や個性に応じた読み物（絵本など）の作成など、多様な子どもたちの学びを実現するツールとして活用していきたい。

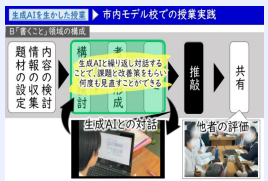
Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です

具体的な活用例





【小 6】ハルシネーション体験

生成 AI に「線対称のアルファベットを教えて」と入力した際の、一部児童の端末に表示された誤った回答を受けて、クラスで共有した。生成 AI の回答が全て正しいわけではないことを体験した。

【中 2】個に応じて助言する生成 AI の活用

生徒は、Gemini と壁打ちを繰り返しながら、意見文を独力で推敲できた。さらにそれは、これまで教員が「生徒全員分の意見文を読み、添削して返す」という時間も労力もかかる割に、教育効果の出にくい作業を繰り返していたが、そこに光が差した瞬間だった。

※この事例は 2026/06 時点の内容です

HE｜大学　授業

旭川市立大学｜難波 繁之 氏

Gemini 活用で教職課程の指導案が先進的な授業へ変化

導入前の課題

指導案作成における前例踏襲と先進教育の乖離

大学の教職課程における課題「学習指導案」の作成において、先進的な教育法を講義で教えているにもかかわらず、提出される指導案が前例踏襲的な内容に偏る課題があった。事前に行わせた手書きの指導案では、教員が板書して説明し生徒がノートを取るという従来の型にとどまっており、学生が主体的・対話的で深い学びを具体化する指導案を自力で作成することが難しい状況が生じていた。

取り組み内容

Gemini を活用した指導案の演習導入

教職課程の演習において、単体の生成 AI である Gemini を導入。学生が作成した指導案の記述内容を入力させ、単なる文章校正にとどまらない活用を図った。具体的な取り組みとして、PBL（問題解決型学習）やアクティブ ラーニングの活用事例、Scratch やゲーミフィケーションに関するキーワードを提示して Gemini に入力させ、手書きの指導案がどのように変化するかを体験させる演習を実施した。

導入後の変化

指導内容の劇的な質的向上

Gemini を活用して演習を行った結果、学生が最初に作成した指導案と比較して指導内容が格段に向上した。前例踏襲の授業案から、先端的な教育アプローチを取り入れた指導案へと深化し、指導する教員と学生の双方にとって驚きをもたらす成果が得られた。

世界標準の先進教育への意識変容

教員の卵である学生たちが生成 AI を有効活用することで、先進的な学びを実践する指導案の作成が可能となった。従来の教育手法にとらわれず、世界の先進教育に追いつくための指導法を模索し実践する姿勢が芽生えるなど、教員養成における劇的な教育効果が確認された。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



生成AI活用・探究学習ワークシート

AIとの対話を通して、深い学びと課題解決の視点を身につけよう

年・組・番　　氏名

1 調べたいテーマ・解決したい問い

探究学習や授業で調べてみたいテーマや、気になっている課題・疑問を書きましょう。

探究テーマ・問い	
このテーマを選んだ理由・背景	
知りたいこと・調べたいポイント	

活用者の声

「現在、小学生から大学生まで、授業では生成 AI を使っている児童生徒、学生が多数います。制限をするのではなく、生成 AI リテラシーをしっかり教育しながら、取り入れていく施策を早急に策定する必要があると考えております。」旭川市立大学 講師 / 難波 繁之 氏

※この事例は 2026/06 時点の内容です

HE｜専門学校　授業

鹿児島医療技術専門学校｜小牧 祥太郎 氏

Gemini Notebook で講義資料を音声化し学習意欲向上

導入前の課題

専門科目の理解・定着と学習時間の確保

言語聴覚士養成課程の「摂食嚥下障害学」等の専門科目では、膨大な専門知識の理解・定着が必要とされる。しかし学生からは「教科書の内容が難しい」「学習時間を確保しにくい」「復習方法が限られる」といった課題が挙げられていた。従来の教材では限界があり、時間や場所を問わず学べる主体的な学習支援手法の構築が求められていた。

取り組み内容

講義資料の音声概要機能による教材化

講義で使用するスライド資料（PDF）を Gemini Notebook に読み込ませ、音声概要機能を用いて対話形式の音声教材を生成した。訓練の立案やチームアプローチ、嚥下評価などの専門内容を音声化。作成した教材を学生に視聴させた後、 UEQ 評価や自由記述アンケートを実施し、学習支援ツールとしての有効性を検証した。

導入後の変化

評価尺度 4 項目で高評価を獲得

UEQ 評価において、「魅力性」「効率性」「信頼性」「刺激性」の 4 尺度で国際的ベンチマークと比較して高い評価を獲得した。生成 AI による音声教材が、学生の学習意欲を高める良好なユーザー体験を提供できることが示された。

隙間時間を活用した学習習慣の定着

自由記述アンケートでは「通学中や空き時間に学習できる」「対話形式で理解しやすい」との肯定的な意見が得られた。従来のテキスト学習を補完し、 2026/06/26 ・ 27 開催の日本言語聴覚学会での発表につながる成果を上げた。

Gemini | Deep Research | Canvas | Gemini Notebook

Gem* | Google AI Pro for Education | Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



活用イメージ

講義用スライド（PDF）を Notebook に読み込ませ、専門内容を対話型の音声教材へ変換。通学中や隙間時間にスマホ等で聴くことで、専門知識の定着と主体的学習を促進した。

※この事例は 2026/06 時点の内容です

HE｜大学　授業

casestudy link （JA）

鎌倉女子大学｜古川 俊 氏

Deep Research 活用で講義を対話の場へ

導入前の課題

講義中心の授業で対話時間確保が困難

「子どもとメディア環境」を扱う授業では、社会や技術の変化が速く、既存テキストを読むだけでは最新事例を踏まえて議論する時間の確保が難しかった。教員の説明時間が長くなるほど、学生が自ら問いを立て、情報を比較し、意見を言語化する時間が少なくなる課題を抱えており、授業を「教える時間」から「考え、話し合い、まとめる時間」へ転換することが求められていた。

取り組み内容

事前学習への AI 活用で対話型授業へ

毎週のテーマに対し、学生は事前学習として Deep Research を活用し、最新事例や多角的な論点を整理した学習用ドキュメントを作成した。作成物を Gemini Notebook に読み込ませ、音声解説やスライド等へ展開して論点を把握した上で授業に臨む体制を構築した。授業内では事前学習を前提としたグループ ディスカッションや視覚的なまとめに注力し、教員は知識伝達から対話を深める学習デザイナーへと役割を転換させた。

導入後の変化

根拠に基づく深い対話

事前学習で情報を整理して臨むことで、授業が知識を聞く時間から根拠に基づき意見を交わす時間へと変化した。学生は単に便利か危険かと二分せず、多角的な視点から考察するようになった。

考えの深化と振り返り

他者の意見を聞いた後に自分の考えを修正し、深化させる場面が増加した。授業後の振り返りにおいても、情報源の確認や具体的対策について、自身の経験としっかりと結び付けた記述が見られるようになった。

批判的思考と発信力

全 15 回 の集大成として自ら設定したテーマで発表を実施した。AI で調べるだけでなく、調査から対話、表現、振り返りのプロセスを繰り返すことで、情報を批判的に捉え、自分の考えとして発信する力を育成できた。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



活用者の声

「AI の活用により生まれた時間を、学生同士が問いを共有し、自分の考えを再構成する時間へ還元できたことが、本実践の最も大きな価値です。」

鎌倉女子大学 講師 / 古川 俊 氏

※この事例は 2026/09 時点の内容です

HE | 大学　事務・学務 / 経営、授業

casestudy link （JA）

京都大学

Gemini 活用で日常業務を約半減し研究・学習支援も推進

導入前の課題

旧システムの利用率低迷と情報共有の不全

長年運用していた旧グループ ウェアの利用率が低く、メールもオンプレミス環境であったため学内の情報共有が十分に機能していなかった。また、システムのメンテナンス コスト増大も課題となっており、クラウド環境への移行が急務であった。さらに、生成 AI の導入にあたっては、セキュリティ リスクやコンプライアンスへの懸念から「どのようなデータを入力してよいかわからない」という教職員の困惑があり、安全性を担保した運用の仕組みと学内への定着が求められていた。

取り組み内容

データ保護環境の構築と全学的な活用浸透

Google Workspace for Education を導入し、データ保護が強化されたタイミングで Gemini や Gemini Notebook を有効化。既存の業務フローへ自然に組み込める安全な基盤を整備した。学内では用途に応じたマルチ AI 構成環境を整えつつ、Google Workspace との連携性から業務用途として Gemini の利用を推奨。セキュリティ周知やマニュアル作成、Google AI Pro for Education の約 200 ライセンス導入、さらに職員対象の 1 年間のトレーニングを実施し全学的な定着を推進している。

導入後の変化

日常業務時間を約半減

企画や資料作成のドラフト生成スピードが向上し、議事録作成やメール対応など日常業務の時間を体感で約半分に短縮。Gem を用いたツール開発も進み、プログラミング未経験者の業務自動化をサポートしている。

研究課題を 3 ヶ月で完遂

Gemini Deep Research での論文収集やデータ解析の同時並行化により、従来 1 年以上要した複数の研究課題を 3 ヶ月で完遂。理論を覆す新発見とともに複数の論文執筆に成功した。

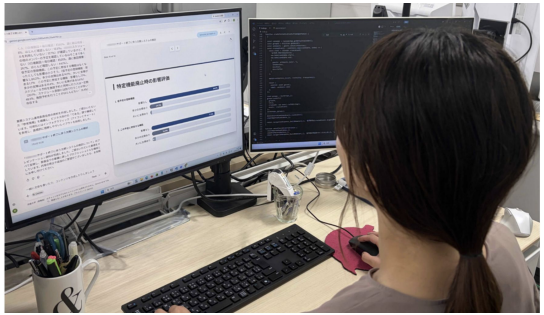
シラバス連携で履修支援

シラバスを登録した Gemini Notebook 環境で学生の科目探索や履修計画の策定を支援。AI の倫理的課題や限界を自ら学ぶことで、単なる代筆を超えた批判的思考を養う高度な教育ツールとして活用されている。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



活用者の声

「定量的な評価は進行中ですが、議事録作成やメール対応といった日常業務における時間短縮効果は、体感ですが、約半分になったと感じています」

情報部 情報推進課 電子事務局掛 / 森井 庸介 氏

※この事例は 2026/09 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営

casestudy link （JA）

駒澤大学

タスク工数を平均 65.5% 削減。無意識の AI 活用を推進

導入前の課題

リソース不足による業務逼迫と AI 活用の課題

学生約 14,700 人に対し職員約 230 人とリソースが限られる中、大学に求められる機能の増加に伴い事務業務が逼迫していた。2023 年から他社 AI の PoC を実施したものの、日常ツールから別サービスへ切り替える手間が利用のハードルとなる課題が浮上した。業務を中断せず自然に AI を活用できる環境の整備と、データ保護に配慮したガイドラインの策定が求められていた。

取り組み内容

既存環境への統合による AI の定着推進

2011 年から導入していた Google Workspace for Education の基盤を活用し、2025 年 4 月に Gemini と Gemini Notebook を教職員向けに導入した。データ保護方針を評価して利用制限を設けず、日常ツール上で切り替えずに使える環境を整備した。さらに Google AI Pro for Education も採用し、事例やプロンプトを共有・学習できる学内ナレッジ プラットフォーム「Gemini Lab」を開設して定着を図った。

導入後の変化

タスク工数を約 65.5% 削減

導入半年後の調査で文書作成やメール対応などのタスク工数が平均 65.5% 削減された。2026 年 5 月時点で月間利用率は 91% に達し、職員の 90% が満足と回答するなど高い成果と定着率を示している。

ノウハウ継承と属人化防止

キャリア センターへ異動した職員が Gemini で企業調査を行い、学生用相談シートを作成するなど業務の立ち上がりを支援。異動時の知識不足を補い、ノウハウ継承や業務の属人化解消に貢献している。

即座な情報参照を実現

規程や資料をあらかじめ Notebook に読み込ませることで、会議中の質問に対し根拠に基づいた回答をその場で参照・提示可能となった。後日回答となっていた業務を減らし迅速な意思決定を支援している。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です

活用者の声

「AI が定型・高度業務を担うことで、教職員が学生一人ひとりと向き合う時間や、社会との新たな連携を生み出す時間を最大化できます。『駒澤 2030』が掲げる目標を、わたしたちは AI と共に実現していきたいと思います」
学長室 学長企画課 / 武田享也氏

※この事例は 2026/09 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営

casestudy link （JA）

駒澤大学





画面: 武田氏が作成した Gemini Lab
学内の AI の活用事例やプロンプトを共有している、教職員同士が学び合うためのナレッジ プラットフォーム には、『Google Chat のログから業務ナレッジを自動抽出 & データベース化する』や、『Gem を活用した業務マニュアルの自動作成』などユニークな活用事例が投稿され、それに対する「いいね」ボタンの反応も着実に増えているといいます。

※この事例は 2026/07 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営

中央大学｜永沼 悠紀 氏

属人化した仕様書作成を AI で標準化し質を向上

導入前の課題

専門的な仕様書作成業務の属人化

情報環境部門の業務は専門性が高く、高度な通信機器の調達などにおいては、一部の経験豊富な職員しか仕様書を作成できない状態だった。特定の個人に過度な負担が集中する体制を改善し、業務を標準化して誰でも活躍できるような環境を整えることが急務となっていた。

取り組み内容

過去データを学習させた専用 Gem の構築

過去の調達案件の仕様書を Gemini Notebook に読み込ませ、それを知識ソースとする専用の Gem を構築した。アップロードされた見積書の内容に基づき、Gemini の Canvas へ仕様書案を出力させている。生成過程をブラックボックス化させない工夫として、Gem のカスタム指示で一問一答形式を徹底し、ユーザーに選択式で記載項目を確認させながら精度の高い生成物を得られるようにした。

導入後の変化

誰でも仕様書のたたき台作成が可能に

導入前はベテランの専任職員 1 名しか対応できなかった仕様書作成業務において、導入後は誰でもたたき台を作成できるようになった。生成されたたたき台を委託業者のシステムエンジニアと相談しながらブラッシュアップすることで、実際の調達でそのまま活用可能な仕様書が完成し、特定個人への負担集中が改善された。

経験を活かしたレビュー体制で質が向上

AI による標準化されたフローで誰にでも仕様書作成ができるようになったことで、ベテラン職員がこれまでの経験を活かして仕様書のレビューを行う立場へと回れるようになった。これにより、業務負担の平準化が達成されただけでなく、業務の質向上という副次的な効果ももたらされている。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です

利用フロー

過去の仕様書を Notebook に読み込ませて知識ソースに指定。アップロードした見積書に基づき、Gem が一問一答の選択式で記載内容を確認しながら仕様書案を生成する仕組みを構築した。

※この事例は 2026/07 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営

中央大学｜永沼 悠紀 氏



ベテラン職員に偏っていた専門性の高い大学の情報環境部門の業務を、標準化するために業務フローが作成された。

Gemini Notebook や Gem、Canvas といった AI 活用だけでなく、人の目によるレビューを介すことで属人化からの解放に加え、さらなる質の向上を実現した。

※この事例は 2026/07 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営

casestudy link （JA）

東京工芸大学｜橋本 俊之 氏

高校訪問の属人的な関係記憶を AI で構造化し継承

導入前の課題

属人化による関係記憶の断絶

入試広報の高校訪問において、進路指導の 先生方との関係構築が成果を左右する。しかし本学では担当する高校が年度や部局ごとに交代するため、評価の背景にある関心や懸念、口頭での約束といった「関係の文脈」が定型項目に収まらず、前任者の中に残ったまま事実上リセットされていた。訪問記録は残っていても新しい担当者がすべてに目を通す時間はなく、読み解きが個人の力量に委ねられ属人化する「関係記憶の断絶」が構造的な課題となっていた。また、帰学後の記録作成は後回しになりがちだった。

取り組み内容

音声入力と AI でカルテ構築

コードを一行も書かずに、『高校カルテ』を核とする循環システムを構築した。訪問直後に Google フォームから音声入力で内容を送信すると、Google Workspace Studio のフローが起動し、Gemini が定型項目と柔らかい文脈を抽出して Google スプレッドシートへ自動追記する。さらに Gemini Notebook がカルテや募集要項を保持し、次の担当者が訪問前に質問するだけで、過去の経緯や未対応の提案などを出典つきで引き継げる仕組みを整えた。

導入後の変化

関係記憶の断絶を修復

ある県立高校の 8 年・3 回にわたる訪問記録を Gemini Notebook に問うた結果、前任者の関係文脈が継承されず、指定校枠の存在すら先方に十分認識されていなかった経緯が明らかになるなど、関係記憶の断絶を可視化・修復できた。

関係深化の理由を継承

段階評価では追えない、本学への評価が数年で段階的に上がった理由を継承可能になった。自由記述にのみ存在した「特待生制度が有益との反応が具体的な検討につながった」という文脈が出典つきで引き継がれるようになった。

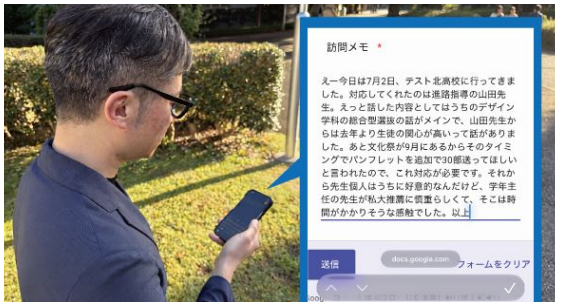
未対応の提案を発掘

過去の記録の中から、遠方の生徒が講座に参加しやすくするための提携ホテルに関する先方からの提案など、未対応のまま残っていた宿題をシステムが自動で表面化させた。担当交代とともに消えていた埋もれた情報を発掘できた。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



導入のポイント

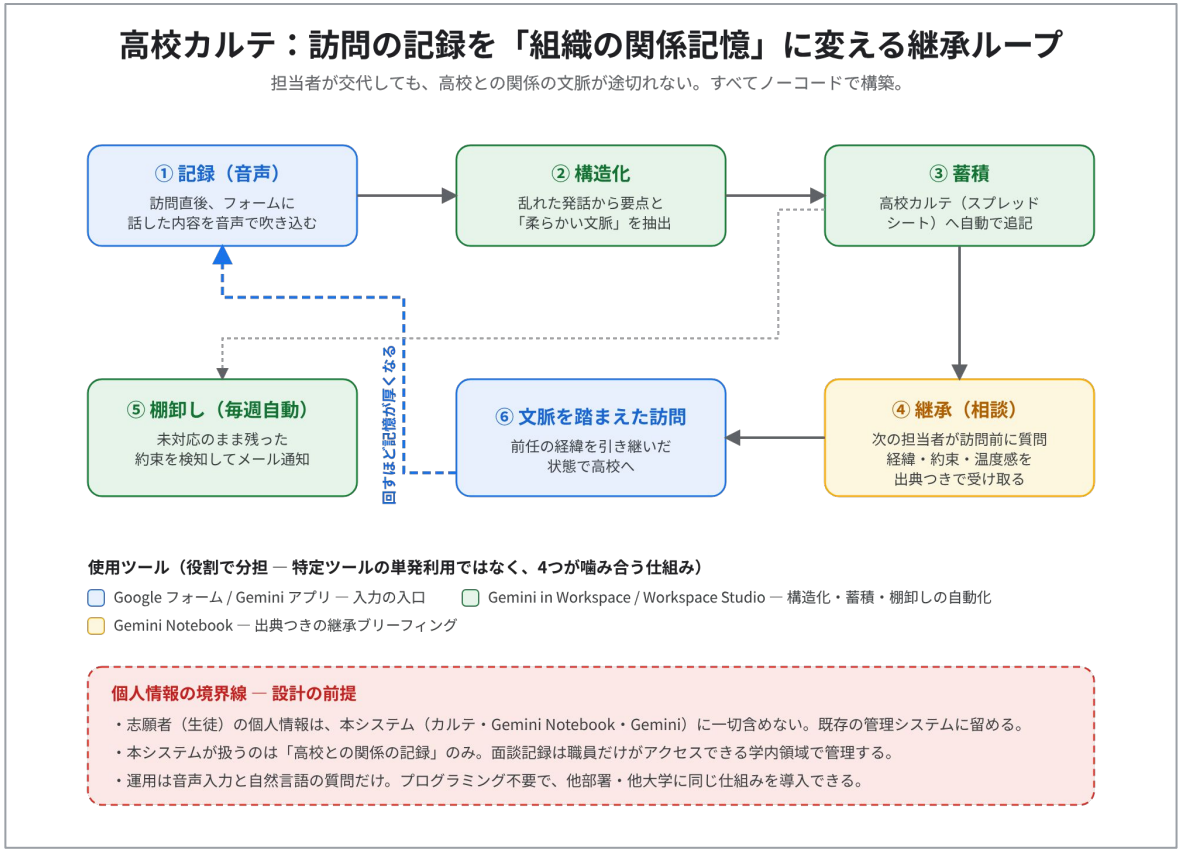
本システムはプログラミング不要で、音声入力と自然言語での質問のみで運用できる。高度な IT スキルに依存せず、項目やプロンプト等を一式化した「導入キット」として他部署や他大学でも手順書に沿って同じ仕組みを構築できる

東京工芸大学｜橋本 俊之 氏

※この事例は 2026/07 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営

casestudy link （JA）



Google フォーム からの音声入力を基に、Gemini が面談相手や話題の要点などの「定型項目」と、関心の背景や口頭での宿題といった「柔らかい文脈」を自動で抽出し、Google スプレッドシート （高校カルテ）へ構造化して記録した

※この事例は 2026/06 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営

東京成徳大学｜元木 章太 氏

Gemini と GAS で会議運営を自動化

導入前の課題

持ち回り会議の業務手順が不定着

事務職員が持ち回りで運営している会議において、業務手順が定着しにくいという課題が存在していた。担当者ごとに手順の認識や作業品質にばらつきが生じ、会議の準備から事後処理に至るまでの効率化が求められていた。誰が担当になっても簡易かつスムーズに業務を進行できる仕組みの構築が必要とされていた。

取り組み内容

Google フォーム・GAS・Gemini の連携

議題提出フォームと Google スプレッドシート上の実行ボタン（GAS）を構築し、議題集約から議事次第の自動生成、未提出部署への自動リマインドを導入した。会場での出欠確認はタブレットでのセルフチェック方式に変更し、入力された出席者のデータが議事録へ自動で転記される仕組みを構築した。さらに、議事次第と当日の音声文字起こしを Gemini に読み込ませ、「優秀な事務職員」としての役割や制約事項を定義した専用プロンプトを用いて、議事録作成における品質を標準化した。

導入後の変化

会議準備の自動化による工数削減

議題収集から議事次第の生成までの連携を自動化したことで、従来の手作業による転記作業を撤廃した。これにより、会議準備にかかる作業工数を大幅に削減し、担当者の業務負荷軽減を実現した。

会議後の事後処理の効率化と品質標準化

タブレットで入力された出欠データが議事録へ自動転記されるようになり、事後データの入力作業を撤廃した。さらに、議事次第と当日の音声文字起こしを Gemini に読み込ませ、専用プロンプトを活用することで文脈を誤解しない高精度な要約を実現した。担当者のスキルに依存せず、常に高品質な議事録を作成できる体制を整えた。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です

具体的な作成事例

Gemini を用いて GAS のコードを生成し、「議題集約・アジェンダ自動生成ツール」と、文脈を誤解せず高精度な要約を生成するための「優秀な事務職員プロンプト」を作成。担当者のスキルに頼らない業務の標準化パッケージを実現した。

※この事例は 2026/06 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営

東京成徳大学｜元木 章太 氏

ワンクリックでの議事次第作成

集約データからの定型フォーマットの議事を生成

全対象部署からのフォーム回答が完了していることをシートで確認

実行メニューから **「議事を作成する」** をクリック

自動生成されたWordやドキュメントを最終確認



motoki　7

あらかじめフォームで出欠や議題を収集し、回答をスプレッドシートに集約した。Gemini の Canvas で GAS コードを生成し、Google ドキュメントの議事次第を自動生成する仕組みや、未提出部署への自動リマインド機能を構築。

さらに、会議後は 「優秀な事務職員」として役割や制約事項を定義した専用プロンプトを用いて、議事次第と当日の音声文字起こしを読み込ませることで、議事録作成の品質を標準化した。

※この事例は 2026/06 時点の内容です

HE | 大学　事務・学務 / 経営、授業

casestudy link （JA）

UTokyo 東京大学

主体的な学びと業務高度化を支える全学的な AI 活用

導入前の課題

全学的な方針策定と教員の作業負担解消

生成 AI の普及に伴い、規制ではなく正しく使いこなす能力を育成する全学方針の策定が求められていた。方針のもと教員の業務負担軽減を目指す中で、国際標準に対応した詳細なシラバス改訂に伴う作成・更新の作業負担増加が大きな課題となっていた。さらに、履修情報が学内各所に分散し学生が一元把握しづらい点や、工学部の実践授業において自由度の高い課題に対し教員個人による十分なフィードバック提供が困難な点も改善すべき課題であった。

取り組み内容

全学基盤構築と Gemini 活用推進

全学的な教育 DX プラット フォーム「UTONE」の構築を進めつつ、教員の業務高度化と学生の主体的な学びを支える環境として Gemini や Gemini Notebook を導入した。シラバス作成支援では Gemini を活用し 13 回分の授業計画案を自動提案する実証トライアルを実施したほか、工学部の実践授業ではカスタム Gem による相談 Bot を導入し、要件整理や技術相談を対話形式で支援する体制を整えた。さらに教員個人の文献サーベイや助成金申請マニュアルの確認にも Notebook を活用した。

導入後の変化

シラバス作成負担の軽減

実証トライアルの結果、Gemini による 13 回分の授業計画案の自動提示により、デザインの客観的な確認が可能となった。作成に伴う教員の業務負担軽減と教育品質の維持・向上が両立したとの声があった。

Gem で主体的な学びを促進

約 80 名の受講学生がカスタム Gem へ納得するまで質問できるようになり、教員への頼り切りを防ぎながらアイデアを高い完成度で形にする主体的な学びが促進された。

研究室の確認コストを削減

論文サーベイや助成金マニュアルの即座な参照に Notebook を活用することで確認コストが削減された。教員が本来時間を割くべき研究提案執筆や学生との対話に専念可能となった。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です

活用者の声

「…アイデアをより高い完成度で形にした提案が増えました。教員には遠慮して尋ねにくい初歩的なことでも、Bot になら納得できるまで何度でも質問できる点も、大きな効果をもたらしています。」
東京大学 / 川原 圭博 氏

東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

※この事例は 2026/05 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営

AI を人間の機能拡張と位置づけ学生の生産性が 10 倍に

導入前の課題

国際化への対応と、新たなテクノロジー受容に向けた環境整備

国際卓越研究大学としてグローバルな業務展開が求められる中、教職員の英語対応力をいかに支援し、円滑に高めていくかがテーマとなっていました。また、全学的な AI 環境の導入においては、新しいテクノロジーに対する理解を深め、活用に向けた機運を醸成していくプロセスが必要でした。世界の学術研究が「AI 前提」へとシフトする中、本学が世界との競争を勝ち抜き、研究力をさらに発展させるためには、AI の積極的な活用が不可欠であるという未来を見据えた強い使命感も抱いていました。

取り組み内容

現場主導の AI 活用と、自主性を重んじる信頼ベースの運用

AI を単なるツールではなく、言語などの制約を越えていく「人間の機能拡張」の手段として位置づけました。学内では現場主導の自発的な活用が進み、情報部門のみならず国際部門のスタッフ自身が、本学固有の用語や組織目標を学習させた専用の翻訳サイト（Gemini ベース）を構築し、日々の業務に活用しています。学生に向けては、厳格な制限を設けるのではなく、「倫理観を持って積極的に活用する」という学生への信頼に基づく方針を貫き、自律的な学びと前進を後押ししています。

導入後の変化

AI の全学的定着と挑戦を促す風土の醸成

導入に向けた理解が深まるにつれ、現在では多くの教職員が AI を日常業務に欠かせないパートナーとして活用し、学内に深く定着しています。AI のサポートによって英語業務に対する心理的なハードルがなくなり、新しいことへ前向きに挑戦しやすい環境が生まれています。

学生の生産性の飛躍的な向上

AI を自身の機能拡張の手段として理解し、日々の学びに活用している学生たちは目覚ましい成長を見せており、現場の教員から「10 年前に比べて生産性が 10 倍になっている」と高く評価されるほどの飛躍的な向上を遂げています。AI を活用した個人の能力拡張の先に、大学そのものの飛躍的な機能拡張が見据えられています。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です

活用者の声

「"未知への恐怖"さえ乗り越えれば、誰もが手放せなくなる圧倒的な便利さが待っています。」

東北大学 / 藤本 一之 氏

東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

※この事例は 2026/05 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営





画面: 職員向けの「事務国際化推進係 サポートサイト」

東北大学固有の組織名や専門用語をあらかじめ学習させた、事務職員専用 Gem「東北大学文書二言語化（文書生成）」で、学内文書の作成やメールの二言語化など、効率的な業務サポートを行うツールとして提供されています。

※この事例は 2026/05 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営

東洋大学

全学利用率 55% 超、草の根戦略で教職員の自己効力感を向上

導入前の課題

本質的業務に注力できる環境作り

東洋大学業務改革室では、持続可能な組織を目指す 15 年先の基盤作りとして、「“ひと” が中心のキャンパスへの回帰」を掲げている。学生や教員に心と言葉を尽くす時間を最大化するためには、約 1,700 名の多様な教職員が「本質的業務の時間」を生み出す必要がある。人がより人らしく付加価値の高い業務に注力できる環境をつくるための手段が求められていた。

取り組み内容

焦らない草の根戦略と伴走支援

焦らない「草の根戦略」を展開した。第一段階として安全に使える環境を全学に解放し、次にアーリー アダプター 70 名を育成して現場の熱量を高めた。さらに役職別セミナーや「Gemini アワー」を実施し個別フォローを行った。また、「すきまの IT 相談室」を開設し、学内者である強みを活かして約 12 部署、累計 48 案件の IT に関する困りごとに寄り添い、解決策を提案する伴走支援を実施した。

導入後の変化

日常業務の強力な相棒

議事メモやメール返信文の作成といった日常作業から論点整理などの対話、さらには Google Apps Script の記述やウェブアプリ構築といった開発まで、多岐にわたる業務で活用されている。

教職員利用率 64% 超

専任教員 64.4%、専任職員 67.7% の利用率を達成した。段階的な導入と手厚いサポートにより、多様な教職員に浸透が進んでいる。

教職員の自己効力感向上

大きな成果として、「業務は自分たちで変えられる」という自己効力感が醸成された。外部ベンダー任せではなく、業務を最も理解している自分たち自身で課題を解決し、やりたいことを実現できる組織へと変化した。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



作成成果物

Google スプレッドシートや AppSheet を用いて、「ハートふるエール（褒め文化醸成システム）」や「自己啓発補助管理システム」を内製した。

東洋大学

※この事例は 2026/05 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営





画像左:
「ハートふるエール（褒め文化醸成システム）」職員同士が、感謝やお礼を伝える仕組み。投稿は Google サイトで学内に公開している。

画像右:
「自己啓発補助管理システム」自己啓発に関する費用補助について、AppSheet で「申込〜承認〜報告」を一貫して管理できるシステム。

業務を理解している職員自らがツールを活用して開発し、学内コミュニケーションの活性化や各種手続きの効率化を実現しています。

自主創造
日本大学
NIHON UNIVERSITY

※この事例は 2026/06 時点の内容です

HE | 大学　事務・学務 / 経営、授業

全学 AI 導入で議事録作成を 2 時間から 30 分以内へ短縮

導入前の課題

知的創造時間の不足とセキュリティ上の懸念

日本最大規模の総合大学である日本大学では、教職員の定型業務負担が増加するなか、落ち着いて教育を見直したり新しい取り組みを検討したりするための「知的創造時間」の創出が最優先の課題であった。また、全学的な AI 活用にあたり、個人利用による情報漏洩や入力データの AI モデル学習への利用といったセキュリティ上のリスクを抑え、教職員が安心して活用できる環境構築が必要であった。教育面では、グループワークで生じる大量の手書き付箋というアナログ成果物をデータ化し、教育活動へ還元しにくい点も課題となっていた。

取り組み内容

全学基盤整備と目的別 AI 活用・デジアナ融合

全専任教職員を含む約 1 万人を対象に Google AI Pro for Education を導入し、データがモデル学習に使用されないセキュアかつ利用制限のない全学基盤を構築した。壁打ちや資料・議事録作成には Gemini を、学内規程集などの問い合わせには Gemini Notebook を充てる目的別の使い分けを推進した。さらに授業等では、学生が作成した手書き付箋をスマホで撮影し Gemini で文字認識・要約・感情分析を行う「デジアナ融合」の仕組みを開発したほか、専門教育でも AI を対話的思考のパートナーとして導入した。

導入後の変化

議事録作成工数の大幅削減

1 会議あたり約 2 時間かかっていた議事録作成が 30 分以内に短縮されるなど定型業務が大幅に削減された。これにより、教職員同士のコミュニケーションや学生と向き合う時間が創出された。

規程検索の即時化と確実化

膨大な学内規程集を Gemini Notebook に読み込ませることで、自身の所属に当てはまるルールへ即座にアクセスできるようになり、業務の正確性と安心感が飛躍的に向上した。

思考を深める学びの定着

手書き付箋の文字認識や感情分析を行うデジアナ融合を実現した。単に答えを受け取るだけでなく、自ら問いを立てて論理的思考を深める AI 活用カルチャーが定着しつつある。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



活用者の声

「教職員の業務が増えるなかで…新しいチャレンジについて考えたりするには『知的創造時間』をつくることが最も大切です。そのために、ルーティン ワークをできるだけ AI に任せたいのです。」
日本大学 / 大貫 進一郎 学長

※この事例は 2026/07 時点の内容です

HE｜大学　授業

山形大学｜飯島 隆広 氏

Gemini で生データを解析し剽窃（ひょうせつ）リスクを構造的に回避

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です

導入前の課題

生データの活用とツール操作の指導が困難

本学の教養教育における地域学習科目では、プレゼンに公的統計データによる裏付けを課していた。しかし、Google 検索でヒットする二次データの利用に留まり、自治体等が公開する一次データまで活用できていないことが課題であった。一次データの活用には各種データベースの利用が不可欠だが、ツールごとに操作方法が異なり、限られた授業時数内で使い方を網羅することは困難であった。そこで、高度な IT スキルに依存せず直感的にデータへアクセスできるよう、生成 AI の対話特性を活かしたナビゲーターとして導入した。

取り組み内容

データ探索と生データ解析の 2 ステップ活用

学生が日常的な対話で適切なデータソースや利用手順を導き出せるよう Gemini を導入した。ドローンを用いた物資補給システムの有効性検証など、特別な検索技術がなくても対話を通して適切なデータベースを特定させた。さらに、オープンデータカタログ等から入手した PDF 形式の生データを Gemini Notebook にアップロードし、自然言語で質問して必要なデータを効率的に抽出・可視化させた。生成 AI をデータベース活用の手段と位置づけ、日常の学習プロセスへ組み込んだ。

導入後の変化

一次データに基づく探究の深化

従来の検索では到達できなかった一次データを基にした、根拠のある議論やプレゼンが可能になった。学生が高度な IT スキルを必要とせず、オープンデータ等の生データから直接必要な情報を抽出・可視化できるようになったことで、地域に対する学びが圧倒的に深化する成果が得られた。

剽窃・ハルシネーションの回避

AI の出力をそのままレポートに使うのではなく情報を取得する手段として位置づけることで、剽窃やハルシネーションのリスクを構造的に回避した。教員の特別な IT スキルを必要としないため他科目や中高教育へも展開しやすく、日常の学習プロセスに定着する安全かつ効果的な教育活用モデルを構築できた。

活用者の声

「Gemini for Education と Notebook の組み合わせは、それらのリスクを自然に回避しながら学生の探究心を高められる…教育用に極めて適したシステムだと実感しました。」

山形大学 / 飯島 隆広 教授

※この事例は 2026/09 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営

立教大学

Google AI Pro for Education 導入と実践的研修で、職員の「自分ゴト化」を促し利用率 95.3% を実現

導入前の課題

環境があっても使われない。「ルール不在」と「心理的ハードル」

2025 年度の DX 推進プロジェクト開始時点において、全職員が無料版の生成 AI を利用できる環境にあったものの、その利用は一部にとどまっていた。要因としては、利用ルールが未整備で「どこまで使っていいか分からない」という基準の不明確さや、「どう業務に活かせるか分からない」という成功体験の不足が挙げられる。また、「怖い、難しそう」といった心理的障壁もあり、全職員への普及を目指す理想と現実の間にギャップが生じていた。

取り組み内容

環境整備と実践的スキルの向上を段階的に推進

全専任職員の利活用定着を目指して 2025 年中にガイドラインの整備や活用事例の共有を実施し、安全かつ効果的に AI を利用できる土台を構築。2026 年 4 月に Google AI Pro for Education を導入。導入後は、内製オンデマンド教材による研修や、全職員を対象にしたハンズオン研修、管理職向けの研修を実施し、実践的スキルの向上と AI を活用する組織風土の醸成を図った。さらに、同チームが内製した「議事録作成 Gem」など共通業務用 Gem を職員のオンラインコミュニティで共有し、活発な情報交換を促進した。

導入後の変化

利用率が 95.3% へ向上

2026 年 9 月時点での利用率は 95.3% に達し、前年度から大きく伸びた。職員一人ひとりの AI 利活用への「自分ゴト化」が進み、企画立案などの質と速度の向上に加え、定型業務の自動化・効率化も実現している。結果として、組織全体で業務の効率化と高度化が力強く推進されている。

企画立案の質と速度向上

企画立案のプロセスにおいて、アイデアの壁打ちから企画書の骨子作成までを AI と行うスタイルが定着しつつある。断片的なアイデアの整理と調査や情報の肉付けを AI がサポートすることで、アウトプットの質が高まると同時に、立案にかかるスピードが大きく向上した。

シームレスな業務効率化

Google Workspace の環境内に Google AI が自然に統合されているメリットも大きく、Gmail 上で簡単な指示を出すだけでメール文案の作成支援を受けられるなど、普段の作業画面を離れることなくシームレスに AI を活用でき、日常業務の効率化に直結している。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です



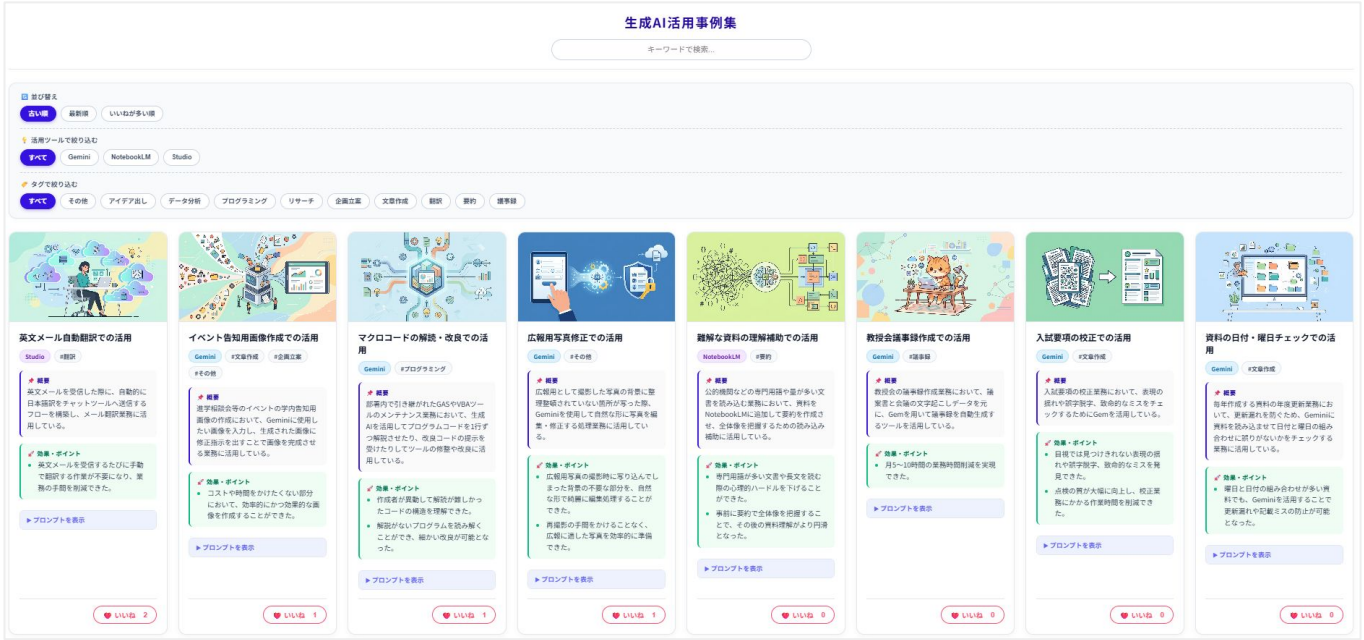
利活用のポイント

DX 推進プロジェクトチームが「議事録作成 Gem」といった日々の業務効率化に直結する専用 Gem を独自に内製し、職員のオンラインコミュニティで共有している。

立教大学

※この事例は 2026/09 時点の内容です

HE｜大学　事務・学務 / 経営





DX 推進プロジェクトチームが職員への情報共有を目的に作成した Gemini 活用ポータルでは、「議事録作成 Gem」 などに加え、生成 AI 活用事例集などを内製することで、様々な活用方法を共有するための仕組み化を実現した。

※この事例は 2026/09 時点の内容です

HE｜大学　授業

casestudy link （JA）

立命館大学

AI との対話プロセス評価で英語発信力を高める

導入前の課題

生成 AI による成果物作成と評価の限界

英文作成において学生が生成 AI に答えを聞き、文章をすべて作らせてしまう問題に直面していた。従来の成果物だけの評価では限界が生じ、“持ち込みゼロ” の試験へ回帰する傾向が見られた。立命館大学のプロジェクト発信型英語プログラム（PEP）においても、成果物評価から脱却し、学生が学びを深める過程そのものを評価する仕組みと、普及しやすい低コストな AI プラットフォームの構築が課題であった。

取り組み内容

対話ログ提出と Gem 活用によるプロセス評価

立命館大学は PEP の授業において Gemini と Gemini Notebook を導入した。正解を提示せずヒントを与える「ガイド付き学習」機能に加え、教員が作成した英語学習用 Gem を活用。正解を教えず適切な問いかけで自力解決を導く指示を設定し、学生には対話ログを全件提出させた。これにより成果物ではなく AI との対話プロセスを評価する環境を構築した。また分析には Gemini Notebook を用いインフォグラフィックで可視化した。

導入後の変化

ガイド付き学習による個別最適な学び

ガイド付き学習がセーフティ ネットとなり、安易に正解を求める利用を防ぎ健全な学習環境を構築した。さらに学生の英語力に応じた適切な負荷を与えながらヒントを提示できるようになり、個々の能力に応じたカスタマイズ学習が実現した。安易な生成 AI 利用による思考停止を防ぐ指導手法が確立された。

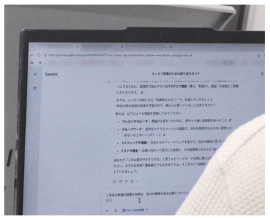
対話プロセスの可視化と主体的な学び

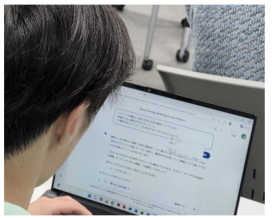
対話ログ全件の提出により学習過程が可視化され、自らの成長の軌跡を確認しながら学べる環境が構築された。事後のアンケートでは AI との対話を評価し「自分で考えるための提案をしてくれる」など肯定的な声が多く寄せられた。また Notebook による視覚化で各自の到達目標と現状の理解促進が図られた。

Gemini　Deep Research　Canvas　Gemini Notebook

Gem*　Google AI Pro for Education　Chromebook

* 2027 年 6 月頃またはそれ以降に提供終了予定です





活用者の声

「ガイド付き学習が想像以上にうまく機能しました。安易に答えを求めようとする学生に対しては Gemini 側が『それはできません。』という形でうまく導いてくれるので、答えだけを出すという最悪の利用は回避できます。」
立命館大学 生命科学部 教授 / 山中 司 氏